

# 広徳寺通信

Letter from Koutokuji Temple 第23号



◆ 色のにぎわい。岡山の後楽園にて

黄<sup>こう</sup>河<sup>が</sup>の流れの急な龍<sup>りゅうもん</sup>門<sup>もん</sup>という場所を登りきった鯉<sup>こい</sup>は龍<sup>りゅう</sup>になるといふ伝説<sup>でんせつ</sup>があります。鯉<sup>こい</sup>の滝<sup>たき</sup>登<sup>のぼ</sup>りともいわれ、「登<sup>のぼ</sup>り龍<sup>りゅう</sup>門<sup>もん</sup>」という言葉の由来です。こどもの日に鯉<sup>こい</sup>のぼりをかかげる風習<sup>ふうしゅう</sup>は、子どもの立身<sup>りっしん</sup>出世<sup>しゅっせ</sup>を願<sup>ねが</sup>う気持ちに託<sup>たく</sup>したもののなんでしょう。今年の干支<sup>えと</sup>でもある龍<sup>りゅう</sup>は神獸<sup>しんぶつ</sup>であり、中国では皇帝<sup>ていおう</sup>のシンボルでもありました。仏教<sup>ぶつこう</sup>でも、龍<sup>りゅう</sup>はお釈迦<sup>しやくか</sup>様の誕生<sup>たんじゆん</sup>を祝<sup>いわ</sup>い天<sup>てん</sup>から水<sup>みづ</sup>を注<sup>つ</sup>いだとされ、また、曹洞宗<sup>そうとうしゆ</sup>でも修行成就<sup>しゆぎんじゆじゆ</sup>のお守りとしてあり、修行者<sup>しゆぎん</sup>は「龍<sup>りゅう</sup>天軸<sup>てんじく</sup>」を携<sup>も</sup>え龍<sup>りゅう</sup>のご加護<sup>かご</sup>を授<sup>たま</sup>かります。

## お寺ニュース

### 4月18日-21日 本山参拝旅行



4月18日から3泊4日で、總持寺へ参拝旅行に行ってきました。広徳寺からも12名が参加し、函館周辺の参加寺院合わせて総勢130名の大参拝団。總持寺をお参りした後、兵庫県の有馬温泉で一泊し、翌日大阪「なんばグランド花月」で大笑い。神戸、赤穂、岡山後楽園を散策し、広島原爆資料館前で被爆者への祈りを捧げ、宮島の厳島神社で記念写真と盛り沢山。楽しい旅でしたよ！

### 4月26日 広徳寺お寺参り奉仕者慰労会



◆お寺参りで台所のお手伝いをしてみませんか？

春のお寺参りが終わり、南茅部の「ひろめ荘」で恒例の慰労会が開かれました。温泉につかり、おいしいものをいただいて日ごろの疲れを癒しました。



曹洞宗  
慈眼山

# 広徳寺



〒049-0162 北海道北斗市中央 2-3-14

TEL 0138-73-2032 FAX 0138-73-5500

✉ info@jigenzan.org www.jigenzan.org



## 寺こや坐禅塾 次回は5月26日(土)

寺こや坐禅塾はどなたでもご参加いただけます。初めての方にもやさしくお教えします。足の組めない方にはイスをご用意しております。また、坐禅の後には、お坊さんのお話がごさいます。日常生活をリフレッシュしたい方、自分自身を見つめたい方、なんとなくお寺に来たい方、どうぞお気軽にご参加下さい。

当日は、膝を曲げてもさしつかえないような、ゆったりとした服装でお越しください。

毎月第4土曜日 午後4時から  
参加費：100円(午後5時終了)

上記日程以外でも坐禅の受付をしております。まずはお電話ください。

## 梅花講よりお知らせ

# 梅花流詠讚歌

講員さん随時募集してます！！

毎週土曜日  
午後1時半から3時半まで  
どなたでもご参加ください。

5月はお詠歌の検定が！広徳寺の奥さんたちが検定に向けて奮闘中です！





# 第20回 「無常ということ」

むじょう

## 修証義

【しゅしょうぎ】

◆お経本の10頁です。

曹洞宗日誦諸經要集

「<sup>ぎおんしやうじや</sup>祇園精舎の鐘の聲、<sup>しよぎやうむじょう</sup>諸行無常の響きあり」  
とは<sup>へいけものがたり</sup>平家物語の有名な冒頭の一節です。<sup>むじょう</sup>無常とは<sup>むじょう</sup>仏教の根本の教え。しかし、<sup>むじょう</sup>無常と聞くと、<sup>びがく</sup>なんだか、滅びの美学を想像してしましますが、<sup>むじょう</sup>仏教では実際にはどのように説いているのでしょうか？

## 無常という真実から目をそらさない

### 【本文】

<sup>さいしやう</sup>最勝の<sup>ぜんしん</sup>善身を徒らにして<sup>いたず</sup>露命を<sup>ろめい</sup>無常の<sup>むじょう</sup>風<sup>かぜ</sup>に任すること勿れ。<sup>なか</sup>

### 【現代語意識】

私のいのちは、まるで草の葉に宿る<sup>よつゆ</sup>夜露のように、朝日が昇るにつれて<sup>はかな</sup>儂も消えてなくなってしまふ。うつろいやすいものです。そのような<sup>むじょう</sup>無常の風にただなんとなく吹かれるにまかせて生きてはいけません。<sup>むじょう</sup>無常という真実から目をそらさずに、しっかりと受けとめ、このかけがえのない人生を大切に生きていきましょう。

## ひと呼吸ひと呼吸を大切に

年々からだの自由が失われていく。これは<sup>むじょう</sup>無常ということです。雪がとけ小鳥が鳴き花が咲く、春の訪れもまた<sup>むじょう</sup>無常ということです。<sup>むじょう</sup>無常とは、あらゆるものは絶えず変化していくということ。これは、私たちが受け入れても拒絶しても絶対にそうであるという、<sup>むじょう</sup>仏教の根本であり真実です。私たちは、この絶対真実を、ともすると覆い隠してしまいがちです。なぜならば、この真実が私たちに示すことは、私たちの健康はいつかは失われ、老いさらばえ、そして死を迎えるということだから。できれば、考えないでいたい。しかし同時に、<sup>むじょう</sup>無常ということは、今かかえる悲しみ悩み苦しきもまた、いつかはなくなるということも示してくれています。さらに、絶えずうつろいゆくという真実によって、この人生において何が一番大事なのかも見えてくるはず。私たちの人生、私たちのいのちは、絶えず変化していく世にあるからこそ、**吸って吐くこのひと呼吸ひと呼吸の間**（今）にしかないということにも気づかされるのです。



ユミの！  
おてらよめ日誌  
新コーナー!!

やっと陽気な春がやってきましたっ！今年の冬は、北の冬一年生の私には辛い季節でしたが、雪が溶け、花や緑や鳥がいきいきとしてくる様子に、今まで以上に春を、そしてお日様のぬくもりをありがたく感じる毎日です!!

さて、そんな春にうきうきな私ですが、去る4月22日～23日に大本山永平寺にて、<sup>じぞく</sup>寺族得度を受けて参りました。<sup>じぞく</sup>寺族得度とは、キリスト教でいう“<sup>せんらい</sup>洗礼”のようなもので、これから<sup>むじょう</sup>仏教の教えに基づいた暮らしを実践してゆくという誓いと共に、お寺をお守りする一員として<sup>しやうじん</sup>精進する、という意味があるのではないかと思います。当日はあいにくの雨でしたが、張り詰めた空気に包まれ<sup>ぜんじさま</sup>禅師様より戒を受けることができ、身が引き締まりました。これから一歩ずつ、私らしく<sup>むじょう</sup>仏教を実践していきたい、と思っております。どうか今後ともご指導宜しく願ひいたします!



今月の写真